

平成28年5月2日

厚生労働省障害福祉課
全国社会福祉協議会
全国身体障害者施設協議会
熊本県身体障害児者施設協議会
熊本県障がい者支援課
熊本市障害保健福祉課

御中

熊本県身体障害児者施設協議会
会長 三浦 貴子
(愛隣館)

熊本地震における支援等の状況報告について（12号）

5月2日の報告をします。

支援協力者—福岡県千歳療護園の日野会長、谷さん、嶋さん、佐藤さん、慈久園の吉田さん・堤さん、陽だまりの里の江見さん、天草星光園の野田さん、大畑さん、東京（社福）浴風会の服部さん、東京（歯科医師）加賀谷さん。

物資等の受け取り—福岡県千歳療護園より全国の物資。

物資等の配達—愛隣館→たちばな園 第6次。 たまきな荘（来館） 第3次。

【活動と現状について】

(1) 人的支援

くまむた荘への人的支援、千歳療護園2名、陽だまりの里1名、星光園（熊本市内泊）より2名のケアスタッフ等計5名が、本日より通り日勤で入りました。スタッフが厚くなり、地震と施設内ホールでの避難生活が続いた利用者の方々を散歩に連れ出すことができ、笑顔が戻ったそうです。そのことがくまむた荘の職員も心から嬉しいと連絡がありました。

(2) 県内被災施設訪問

① ゆめの里（熊本市西区河内）中川施設長、中川副施設長対応。

家財損壊5人、車中泊職員2人、夜勤もしている。現在はライフライン復旧し、施設に被害は無い。16日本震の時の津波警報により、住民が何組か避難して来られた。

17日まで大丈夫だった水道が、受水槽が空となったためか、18日から21日まで断水。ポリタンクを捜し回って、毎日2トンずつ給水場から施設に生活用水を運んだ。支援物資の飲料水には本当に助けられた。感謝している。断水の期間中1度入浴を試みて、16トンの水が必要だった。

系列NPO法人のグループホームでは、16日本震夜の当直が女性で、3Fの車イス利用者を運び出せなかった為、隣の北熊本自衛隊に駆け込み隊員の力を借りて救出することができた。

② 熊本福祉工場、グループホーム（熊本市南区二本木）西山理事長、櫛山施設長、茂工場長、古屋サビ管対応。

危機を救ってくれた支援物資の水と食料、グループホーム利用者の入浴支援に本当に感謝していると述べられた。施設長の家は全壊し、理事長、施設長、職員の多くが避難所や車中泊で、仕事と被災対応を続けている。グループホームの半分が損壊し、立ち入り禁止。廊下が斜めに傾いている地面、建物のひび割れも多数あり地盤沈下しているのが視認できる状態。

近所の古い家屋はペシャンコにつぶれている所もある。利用者1人は県外避難し、1人

はふるさとへの退居となった。福祉工場は始業している。何トンもある印刷機械が50m動いていて驚いている。当直の対応が的確で、従業員、利用者にはけがが無かったのが救い。地域の方が利用者に声をかけて一緒に避難してくれた。地域と助け合っている。自分達も今こそ地域に社会貢献する時だと自覚している。

③ 能力開発センター（熊本市東区長嶺）松永事務局長、吉田所長、中畑さん対応。

職員フル稼働で乗り越えて少し落ち着いてきた。最も不安だった時の水と食料等の救援物資には助けられた。現在福祉避難所を12人利用されている。身体の不自由な方向けに一部ベッドのある部屋、視覚障害者向けの部屋が、それぞれ間仕切りを設けて、用意している。ボラセンからのボランティア受け入れ中。夜間の支援者が不足しているので、人的支援を申し出ているところである。

④ くすの木園（松橋町）上村施設長対応。

昭和56年建設の施設で、天井が落ちるなどの被害があった。職員35人中5人が避難所において、8人が車中泊しながら勤務している。入所は30名、就労B型は1週間休んだ。ホンダの下請け等をしているが、ホンダの工場が再開できるのは5月9日。昨日5月1日にやっと水道が復旧し、今水質検査中。お湯は出ない。幸い隣のりんどう荘グループホームの水とお湯を借りることができている。支援物資の水、食料、生活用品はありがたかった。なんとか職員でやれているとのことだったが、職員の方々の被災割合が高いので、人的支援を受け、職員を休ませることを検討されるのはどうかと話し合った。

⑤ 城南学園（熊本市南区城南町）知的障害者施設 甲斐施設長、荒巻施設長等対応。

施設長はじめ多数の職員が被災しながら支え合っている状態。甚大な被害を受けておられた。人的被害が無かったのは奇跡と思えた。敷地のあちこちに亀裂が走り、施設の看板も倒れていた。通所棟の半分（赤紙）が押しつぶされるような形で窓枠が壊れ、ほとんどのガラスが割れている。

また、入所棟1棟が全壊、天井が剥がれ、設備機器類も落ちている。しかし、14日の前震でスプリンクラーが誤作動した為、16日の本震の時は、利用者をこの入所棟から避難させ、運動場に皆で休んでいて、全員無事だったとのこと。安全が確認できた他の入所棟、体育館、デイサービス棟などで現在対応している。

全員避難の検討もしたが、入所と通所系事業が連動しており、入所の方々を移転すると通所系事業を閉めることとなり、地域の利用者に行く所が無くなる。地域サービスも求められているので、非常に難しい選択となっている。17日からの支援（水、食料）には助けられた。本当に感謝しているとのこと。

(3) 被災地域支援

私達の支援活動と報告11号に添付の「山鹿温泉リフレッシュ事業」を、山鹿市災害警戒本部会議で、市長と福祉部長から報告頂いたと伺いました。次回は4日水曜日の予定です。

改めて被災の大きさに息をのみました。1~2年での復旧は難しいかもしれません。そんな中休まずに責任を持って仕事を続ける職員の皆さんを誇りに思います。支え合いたいと願うばかりです。

(連絡先) 障害者支援施設愛隣館

TEL : 0968-43-2771

FAX : 0968-43-2793